

# 筒台会報

発行所

神戸市立葺合高等学校筒台会

〒651-0054 神戸市中央区野崎通1-1-1

TEL078-291-0771 (葺合高校事務室) TEL078-271-4000 (筒台会事務局)

ホームページ <http://www.todaikai.net>

編集・印刷

三和印刷株式会社

〒658-0024 神戸市東灘区魚崎浜町27-21

TEL078-431-3981



●目次.....	1	●母校トピックス.....	11
●「運営基盤の確立を」.....	2	●フェニックス賞.....	14
筒台会会長 志水利達		●部活動の主な成績／卒業生進路状況.....	15
●「筒台会東京支部活動報告」.....	2	●会員の皆様へお願い.....	16
筒台会東京支部長 渡部 隆		●広告.....	18
●「ごあいさつ」.....	3	●平成23年度 筒台会役員(案) .....	24
校長 田阪義英		平成23年度 筒台会総会・懇親会次第	
●「2年目」.....	3	●会計報告・予算案・会計監査報告・会務報告.....	25
教頭 井原信司		●この人に聞く.....	26
●平成23年度教職員移動.....	3	●平成23年度 筒台会・筒台会東京支部	
●寄稿 筒台会だより .....	4	総会・懇親会のご案内.....	28



## 運営基盤の確立を

筒台会会長  
志水利達 (高校16回)

同窓のみなさん、お元気でお過ごしでしょうか。

今般、とつじょ三陸沖を震源として起こった国内観測史上最大の地震の被害は、東北地方だけでなく、関東地方にまで拡大し「東日本大震災」となりました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。筒台会の中にも被害を受けた会員がいます。この会報が心の絆を結ぶ一助になれば、と願っています。

皆様のご支援とご協力のおかげで、会長として2年を迎えます。筒台会は、これまで諸先輩が築いてきた母校との絆、相互理解、信頼関係をさらに深めるよう取り組んできました。

その一環として、昨年6月12日に「ホームカミングデー（母校を訪問しよう）」と銘打った催しを、在校生の「葺合祭」に合わせて開きました。同窓生のギター演奏、琵琶の弾き語りが続けられ、陶芸、絵画などの作品も展示。元校長の竹内静夫先生の講義に「高校時代を思い出した」との声もあがりました。

会場には、現校長の田阪義英先生をはじめ、在校生も多数顔をのぞかせ、相互理解を深める場となりました。今年も引き続いて開催したい、と考えています。懐かしい母校の空気に触れることができる「ホームカミングデー」にぜひ足を運んでください。

また、葺合高校の前身である神戸市立第一中学校の同窓生とのつながりをさらに強め、70余年の歴史と伝統を伝える証の一つとして校旗の作成に着手しました。現存しているのは白黒写真ですが、諸先輩のお話を総合して復元してみました。今回の総会・懇親会の会場に、葺合高校の旗と並べて掲げます。

高等学校を取り囲む情勢は厳しさを増しています。少子化社会を迎えて学校の統廃合は進み、六甲アイランドなどへの移転というケースも現れています。このような状況の中で、葺合高校は躍進を続けています。この1月31日の神戸新聞には「葺合高校1位」の見出しが躍りました。英語でひとつのテーマを賛否に分かれて討論する「県高校生英語ディベートコンテスト」で、見事優勝したのです。

このような実績もあり、筒井が丘の地で校舎を全面的に建て替えることになりました。昭和14年、神戸市立第一中学校が産声を上げた「地」での、さらなる躍進が約束されました。マスタープランには、独立した「筒台会室」のスペースも組み込まれることになっています。

器の建設に合わせて、会の中身の充実を進めなければなりません。そのためには運営基盤の確立が欠かせません。現在の筒台会は、在校生からの会費と同窓生の協力金によって運営されています。

筒台会の運営を強化し、充実させるために、協力金へのさらなる支援をお願いします。また筒台会報への広告掲載、インターネットホームページ「筒台会」へのバナー広告の掲載も、併せてお願いします。母校の躍進の一翼を担う筒台会へと成長するために、みなさまの熱いご支援をよろしくお願いします。

母校の発展を支え、同窓のつながりの輪（和）を広げる「信頼の筒台会」へと、同窓のみなさまと力を合わせていきたいと思っています。

総会・懇親会でお会いできるのを楽しみにしています。



## 筒台会東京支部活動報告

筒台会副会長  
筒台会東京支部長  
渡部 隆 (高校17回)

筒台会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。常日頃、神戸本部および母校から、絶大なるご支援をたまわり、大変にありがたく厚く御礼を申し上げます。

平成22年度の東京支部は、何といても5月22日（土）の、銀座・三笠会館で開催しました「東京支部総会・懇親会」です。学生も含めて。出席者が東京支部会員で、80名を超えました。これは、ホーム・グラウンドの、三笠会館での開催としては、過去最多です。現在、連絡のとれる東京支部会員は約800名の内、一割の方が出席したことと、なります。

以下は、月別・項目別の活動報告です。

- ① 4月17日(土)「役員会」、京王クラブにて。
- ② 5月22日(土)「東京支部総会・懇親会」、銀座・三笠会館にて。
- ③ 6月5日(土)「第7回鎌倉歴史散歩」、祇園山ほか。
- ④ 7月3日(土)「第4回寄席の会」、国立演芸場にて。
- ⑤ 8月28日(土)「第4回横浜港クルージング」
- ⑥ 9月25日(土)「第9回語る会」、高校22回・河村 雄行氏、東京工業大にて
- ⑦ 10月21日(木)「第10回歌舞伎観劇会」、国立劇場にて。
- ⑧ 11月6日(土)「役員会」、京王クラブにて。
- ⑨ 11月27日(土)「第3回立川昭和記念公園・紅葉狩」
- ⑩ 12月11日(土)「忘年会」、新宿東口にて。
- ⑪ 1月15日(土)「第5回寄席の会」、国立演芸場にて。
- ⑫ 2月26日(土)「第10回語る会」、高校17回・渡部 隆、京王クラブにて
- ⑬ 3月17日(木)「第11回歌舞伎観劇会」、国立劇場にて。
- ⑭ 3月26日(土)「第5回花見の会」、浅草にて。

\*尚、13と14は東日本大震災の為に、中止としました。

今年も東京支部の良き伝統「アットホームな良さ」を保持しながら、全ての面で拡大・発展を図ります。なにとぞ、倍旧のご支援・ご協力をよろしく、おねがい申し上げます。





ごあいさつ

校長  
田阪 義英



2年目

教頭  
井原 信司

去る3月11日に発生した東日本大震災は、死者1万人以上、行方不明1万6千人以上（4月1日現在）、全国の避難所で暮らす人は17万人以上、建物被害は全壊・流失が約1万9千戸と、私たちが16年前に経験した阪神・淡路大震災を遙かに上回る惨事となっています。学校関係でも多数の児童生徒、教職員が犠牲となり、学校再開のめどがまだまだ立たないことを聞くにつれ、深い悲しみにとらわれます。震災を経験した学校関係者として、切に1日も早い復興を祈らざるを得ません。

さて、話は変わりますが、このたび神戸市教育委員会は葺合高校について現地（筒台の地）で全面的に建て替えを行うと発表しました。この発表は、先の震災での被害は軽微とはいえ、かなり古くなって、至るところクラッシュや塗装の剥落などが目立つために、一日も早く校舎改築を望んでいた私たち葺合高校関係者にとって、朗報となりました。卒業生のみならず、みなさまにもこの紙面を持ってご報告申し上げます。

新校舎は現在の本館・第2体育館を中心にした南側の建物を高層化し、北側の建物は周辺の環境を考慮し、少し低層にした上で「国際交流棟」「体育館」などになる計画です。工期は平成23年末から平成26年度末までの長期にわたり、その間、授業や部活動場所の確保などに影響が出て生徒たちに不便を強いることとなりますが、生徒・教職員一丸となって、新しい学舎ができるまで頑張っていきたいと思っています。筒台会の会員のみならず、みなさまにも多大なご支援とご協力を賜ることもお聞きしており、感謝の念に堪えません。

私にとって教員生活最後の年となった平成23年度を迎え、葺合高校はまだまだ隆盛していく高校だと改めて実感をしているところです。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

入学式の直前に参列者全員で東日本大震災で亡くなられた1万2千人を超える亡くなられた方に「黙祷」を捧げました。黙祷後、新入生全員が揃っていること、みんな制服を着ていること、保護者の方が祝福にいらしていることに、言い知れぬ感動を覚えました。「のど元過ぎれば」で先の大震災後の苦労や普通の事を普通にできることに感謝する気持ちを忘れていた自分は今回の大災害で冷水を浴びせられました。

そして教師として大人として、この新入生たちを含む若者たちに我々はどうのようなことを教え、どのようなことを鍛えていかなければいけないかと考えさせられました。その一つに本校は進学指導を基本とする学校ではありますが豊かな人間性を育むことにも尽力しております。そこで、葺高生には寸暇を惜しんで読書する習慣をつけてもらいたいと思います。私自身昨年初めて教頭として本校に赴任し、多忙さに心の余裕を失いかけた時、空を見上げて横山秀夫著の「クライマーズ・ハイ」の自衛官の言葉『空はあんなに青いというのに…』という一節をふと思い出したり、暑い日には山本周五郎著の「赤ひげ診療譚」の一節『うしろから照りつける日光は、まるで手に触れることのできる固体のように、立体的な重さを感じられるようであった』という文句をふと思い出して、「ああ、あの表現通りや!」と思い、すごく気が紛れたことを思い出します。本から勇気や、生きる知恵を授かるだけでなく、自分の力では言い表されないことを表現してもらいうれしかった経験が沢山あります。若い感受性の鋭い高校時代に沢山の本に接してもらいたいと思います。

葺合高校で2年目に突入。よろしく申し上げます。

平成23年度 教職員異動

●退職	池田 健	教諭	理科		平成17年 4月から 6年間勤務
	山口 博正	教諭	理科		平成10年 4月から 13年間勤務
	石堂 重本	教諭	芸術		平成 5年 4月から 18年間勤務
	松岡 新一	事務長			平成20年 4月から 3年間勤務
●転出	岡山 直樹	教諭	英語	須磨翔風高校へ	平成13年 4月から 10年間勤務
	北池 邦年	教諭	体育	六甲アイランド高校へ	平成21年 4月から 2年間勤務
	古林 和美	実習助手	家庭	神港高校へ	平成12年 4月から 11年間勤務
	大淵 朋幸	常勤講師	数学	葺合高校で非常勤講師へ	平成20年 4月から 再雇用で 3年間勤務
	藤花 敬子	常勤講師	数歴	須磨翔風高校へ	平成21年 4月から 再雇用で 2年間勤務
	田中 寿明	常勤講師	英語	須磨翔風高校へ	平成20年 4月から 3年間勤務
	堀江 玲那	常勤講師	英語	姫路市立琴丘高校へ	平成22年 4月から 1年間勤務
	小林 直美	常勤講師	英語	県立香寺高校	平成22年 4月から 1年間勤務
	赤穂 遥	常勤講師	英語	須磨翔風高校へ	平成22年 4月から 1年間勤務
	林 裕子	常勤講師	体育	県立星陵高校へ	平成22年 4月から 1年間勤務
林 正宏	事務		建設局西部事務所へ	平成18年 4月から 5年間勤務	
●転入	稲山 安生	教諭	地歴	神戸西高校より	
	湯浅 輝	教諭	数学	須磨高校より	
	掃部 寿彦	教諭	理科	神戸西高校より	
	二木 泰生	教諭	芸術	神戸西高校より	
	末松 慶治	教諭	体育	楠高校より	
	翁長 徹	教諭	英語	六甲アイランド高校より	
	清家 豊	教諭	英語	須磨高校より	
竹下あかね	実習助手		神戸西高校より		
松本 登	事務		神戸工業高等専門学校より		
●再雇用	山口 博正	教諭	理科		
	松岡 新一	事務長			
●新着任	浦崎 和香	常勤講師	英語		
	西堀 秀哲	常勤講師	英語		
	北野 裕之	常勤講師	保健体育		

# 寄稿 筒台会だより



## ある老人の人生模索

ひやめし会 会長 今榮 利熊 (中2回生)

今我々筒台会の皆様には健康で充実した日々をお過ごしのこととお喜び致しています。反面、東日本大震災による地元は目を覆うばかりの大惨事、それに加え福島第1原発事故、地元の方たちの悲しみはわがわがわが過ぎるほどわかります。私も私なりの身丈に合った小さな支援はさせて戴いてはいますが、地元の早々の復興・被災者の早急な立ち直りを日本・世界の人々は待ち望んでいるのです。

一方ひやめし会会員の平均年齢は既に84歳、近年はあれだけ元気だった仲間が徐々に亡くなり、人生の儚さと寂しさを痛感しているこの頃です。そこでたまたま曾野綾子著「老いの才覚」と五木寛之著「生きるヒント」の2作にぶつかり、老人には時間だけはあると言われていたので、この際自分自身の残された僅かな人生をどう考え・どう生き・どう全うすべきかを、その2作を土台に私の老人人生を模索し短文にまとめてみる気になりました。ご意見をお聞かせください。

今は100歳でも元気な老人もいますが、やはりこれは例外一般的には、後期高齢者くらいから智能・肉体の老化が始まるとみるのが妥当であり実感でしょうが、「神戸市立第一中学校生として、極限まで鍛え抜かれた体力に自信を持つ今年の年男としては、せめて後12年、平成35年には再度年男として、最期の平穏な年を揃って迎えませんか」とひやめし会会員に問いかけているのです。これ以上の幸福は無いと思われまます。

老人には年々寂しさが忍び寄り老人は去るのみと、次第に孤独な社会に追い込まれるのが普通なのですが、老人にもそれぞれの個性があり、その中には孤独に耐えきれず諦め日々鬱々と過す老人もいれば、孤独に負けず健康で明るく生きて行ける老人もいるのです。そのための方策は、それぞれが己自身で見つけなければならぬのです。

もともと人間は一人で生まれ一人で死ぬ、人間は生まれる場所も生きる期間も自分で自由には選択できません。人間の一生は生まれると同時に、死へ向かって一歩一歩進んで行く旅人なのです。これは全ての人間の未来であり必ずやってくる宿命です。これを運命と考えると、人間は与えられた有限の人生の中でどう生きるべきかという事を真剣に考えるようになるのです。この事実に向き合っていないは何も解決できません。

人間この年齢になり、人々のこれまでの人生を改めて振り返ってみますと、失敗した人生・平凡な人生・成功した人生、いろいろな人生があるでしょう。しかし全ての老人はみな、それぞれ与えられた宿命と、必死に戦い生きてきたのです。それでもある日ある時、時間切れで死んでしまうのです。人生は決して明るいだけのものではありません。暗い時もあるのです。だからといって悲しそうな顔、憂鬱そうな顔、そんな暗い顔ばかりをしているとたちまち「暗い」というマイナスイメージの批判対象にされるのが落ちです。老人が安楽に生き暮らす秘訣はというと、健康管理と危機管理は当然のこととして、暮らしては分相応、競争心を無くするだけでも気楽で素直に生きられるのです。気楽な暮らしは百薬の長です。そのうえ楽

しく生きる目標を持ち話し合える友人との絆を大切に、自分自身の豊富な経験・知恵・気力を生かした行動で、その輪を広げることだと思っております。しかし、いかに親しい友人・知人・男女のお付き合いだといえども、お互いに気配りをしながらの配慮は必ず必要なことなのです。特に老人のお付き合いでは肝要なことだと思っています。そうする事の中でお互い魅力的な男と女に成長し、健全な色気が出、さらに楽しいお付き合いができるようになるものなのです。人生最後の時間を気心の合った縁ある他人と、少しずつでも人生を共有することで、健やかに楽しく素直に生きられたら、それこそが人生最期の幸福なのです。

とはいえ他人にしてもらう事ばかりを期待しているお付き合い依存するばかりの楽しみではいつかは不満が募り、ついつい愚痴も出るようになります。老人の愚痴は相手ばかりか、自分自身までも悔みにするだけで何も得るものはありません。老人は内心はどうであろうとも、周囲の人たちに不快感を与えないように、明るく振舞う心配りが必要なのです。そのためには身だしなみも大切な要素です。少なくとも毎日3回朝昼晩、鏡に向かうように努力する事です。服装の乱れは心の乱れとも言われますが、それ以上に顔色・顔つやを見ればその時点での健康状態も解るのです。老人はできるだけ鏡と向き合うことです。

次に、老人が心掛け処理して置かねばならないことは、身辺の整理整頓です。身辺整理にも種々ありますが、少し身辺に目を向けると私の周辺にはどうして、これほどつまらぬ物が多々あるのだろうと気づく苦です。溜息をつくほどの古い衣服・読まれない本・見栄えもしない絵に写真、棄てるに棄てられぬ思いの不用品が所狭しと無造作に積み重ねられ呆れるばかりです。死ぬ時には何も残さないのが子供孝行のような気がします。

また人々は大人になってから死ぬまでの間、お金の苦勞でエネルギーをすり減らし生きてきた人間たちが大半ですが、老人になれば分相応でこの生活が出来るだけの小金を所持しているだけで充分なのです。食事もそれほど多くは頂けないし、菜食が主、たまにはウナギが食べたいステーキも食べたい、ちょっと観劇・温泉旅行がしたいとかで、それが少し叶う程度の小금이あれば最高です。もしもお金が無くなれば、観劇・旅行もあっさり諦めるだけの思い切りも大切なのです。さらに理想を言わせて戴けるなら自分の持っているお金は死ぬまでにきれいさっぱり使い切って、最期にお葬式の費用として幾ばくかのお金を残し死ねれば、これ以上最高の人生ではないかと思っているのです。

人間一人が長年生きていくという事は、そのこと自体が凄いとあり素晴らしいことなのです。だからこそ、この人生最期の死という問題については少しでも早く真剣に考え、思いを巡らせた人のほうが、常に生き生きと平静に、しかも幸福感に満ちみちた行動が得られているのです。

私が先立った後、妻が何となく自由無く生き生きと残された人生を生きている姿を、私は天国から暖かい気持ちで眺めていたいと思うし、もし自分が残された場合には、私一人の時間を大切に、自分らしく生きていかなければ先立った妻に申し訳ないと思うことでしょう。老人が生きている間は、家族・友人との過去にあった悲しみ・苦しい思い出よりも、楽しかったこと・いい思い出だけを記憶しておいて、これだけ面白い人生を送らせて戴いた、だからいつ死んでもいいと悟り、最期には「今日まで本当に有難う」と一言、感謝の言葉がつつやけるようになりたいものです。



## 神戸市立第一中学校の旗を作りました

高16回生 榊原 充俊

葎合高校の前身であり、70余年の歴史と伝統のひとつである一中(神戸市立第一中学校)の旗を復元しました。筒台会が思い続けてきたことでした。

校旗は戦災で焼失してしまいました。なんとか当時と同じ色のもの、と資料を探しましたが、残っていたのは白黒の写真2枚だけでした。制服の色、校舎の色、木々などの色の濃淡から旗の色を推定できないか?

写真家の追野浩一郎さん(高16回生)は「何か1色でも基本の色が判明出来れば別だが、白黒写真から色の判断は難しい」。

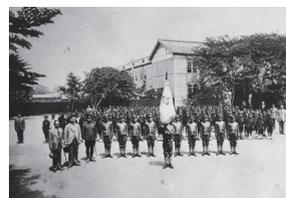
一中の諸先輩方にもお聞きしましたが「色までは覚えていない」との



こと。その中で森田修一さんから「確か地色は赤、1中のロゴは金の刺繍で、市章部分は銀の刺繍だったと思う」と貴重な話がありました。

さらに、作家の浅黄斑さん(高16回生)が、昭和14年に初代校長となり、一中の校長でもあった宮地雄吉氏について「昭和13年に三重県立宇治山田中学校(現宇治山田高校)の校長を務めている。神戸に赴任する直前の宇治山田中学の校旗が深紅に金糸の校章に見えませんか?」との情報を寄せてくれました。

前任校の校旗の色を一中の参考にしたことは、十分考えられます。現在の葎合高校の校旗の色にも一中の流れが残っているのでは…。歴史と伝統のつながりに思いを馳せ、一中の旗の地色エンジ(赤)、ロゴを黄色(金)、市章を白(銀)にしました。



## 筒台会第72回総会に寄せて

旧制神戸市立一中昭和20年 4月卒業 中3 回生 坂部 晃

筒台会の第72回総会を迎えられるに当たりまして、私ども旧制神戸市立一中3回生の総意により心からお祝いを申し上げます。

3回生が中学1年に入学した昭和16年12月に第二次世界大戦といわれた大東亜戦争が勃発し、以後、昭和20年の終戦に至る4年間の中学時代は、物資不足の戦火にマミレタ軍国主義マツダ中、実に厳しく辛抱の4年間を体験しました。

昭和19年に入って学校の授業は中学4年（今の高校1年）の1学期で打ち切りとなり、2学期から川崎重工業など軍需工場へ生徒全員が強制的に働く学徒動員令が発令されるという異常事態に遭遇しました。

当時の中学校の部活といえば剣道・柔道・銃剣術・水泳・陸上・滑空部ぐらいで、今時の野球やサッカーなど全く無い時代でした。

また当時の先生方といえば、先生が生徒たちに余計な鉄拳制裁を加え、特にY先生（通称タコ）やT教官は生徒に怪我を負わせる程の体罰を与えることが日常の茶飯事でした。現在であれば大きな社会問題にまでなっていたことでしょう。

私は中学4年時にグライダー部で3級滑空士の資格を得たので、軍需工場で働くよりも『海軍の飛行予科練習生』という当時の航空兵の道を選び、終戦の日まで日夜、特攻隊員として死に物狂いの訓練を受けた一人です。それが今流でいう高1、高2の年齢でした。

昭和20年の終戦後、私ども中学4年の1学期授業で卒業させられた復員生徒は、その程度の学力で進学を選ぶを得ず、上級校への入門に悲惨な思いをしたことを思い出します。

さて、卒業後の3回生は同期の桜の繋がりが強く、昭和35年頃より今日までの50年間、半世紀にわたって毎年1～2回の同期会を開催。多い時で60人、傘寿といわれる80歳の今日でも毎回15人前後の同期生による集いを催してきました。恐らくこれだけの実績のある同期会は筒台会広しと言えども私ども3回生のみと自負しております。

ただ残念ながら入学時の1年生当時は250余名であったのが、60年を経過した今日では分かっているだけでも120名が死去し、判明しない故人を想定すると恐らく存命者は入学時の半数以下にもなっていると誠に寂しい思いがします。

現在の葺合高校生には、私ども先人が果たし得なかった『明るい青春時代』を大いに謳歌して頂くと共に、今後とも固い信念と正しい摂理を持って処世を送って欲しいと願うばかりです。

どうか23,000人を擁する我々の『筒台会』が更に充実、発展し、来る80周年を今日以上に盛大に迎えられることを心から祈念しております。

## 華の五回生喜寿の同期会

昭和28年卒 高5 回生 永田 良

昭和28年3月卒の高校5回生同期会を、去る平成22年10月23日、熊内の料理旅館「いさご」で開催しました。案内のタイトルが、「終章になるかも!? 華の五回生喜寿の同期会」。

文言の解説は不要でしょうが、その「こころ」は、「全国規模の同期会」はこれで最後ですよ、ということです。タイトル後半の「喜寿」は、昔ながらの数えで設定しました。



われわれの感覚では、数えの方が自然なのです。

学校の記録によると、昭和28年の卒業生は118名。幹事サイドが確認した物故者が23名。住所不明者が13名。したがって、今回案内を出したのが82名。そして、この日、全国から参集した者39名。5割近くが集ったわけで、「終章」を飾るにふさわしい数となりました。

もちろん、欠席通知も多くありましたが、「体調不良」が圧倒的で、卒業以来57年という歳月を実感しました。

今回の誤算は、会場の和室が「掘りごたつ式」ではなかった、ということです。30人までなら、「掘りごたつ式」の部屋があてがわれたのですが、40人近くになったがために、純畳み座敷しかなく、当初は小さなため息も漏れました。でも、宴もたけなわになると、あっちこっちと移動して、腰痛も体重増もなんのその、すっかりスリムな高校生当時に戻ってしまったのです。

15名の、「もと女生徒」の合唱が始まると男性カメラマンが殺到、いやもう賑やかだったこと。

全員で校歌を三番までガッツリ歌い、仕上げは、葺高のテニスコートで縦横に活躍していたS氏のエール「フレイ・フレイ・ふ・き・こ・う・」に、これまた全員が力一杯呼応して、気がついたらもう180分経過。

閉会挨拶に立ったU女史の、「次の会は往復はがきのやりとりレベルで、数えの傘寿(卒業60周年)をメドに、と思いますが、いかがですか?」の問



平成22年5月28日 楠公会館での同期会

いかけに「賛成、さんせい、サンセイ」と応じて、三々五々帰路につきました。

ひとつ追記します。卒業以来5回生が催した同期会は約15回。(プラス1~2回という証言もある)。各回の参加者平均30名~。のべにすると450名~がこの57年間、顔をあわせ続けてきました。私たちが自らを「華の五回生」と自讃する所以の一端を示すデータだと思っています。

## 茸高11回生 “古希を祝って”

高11回生 河野 (旧姓芦田) 紀子・松宮 功



異常な暑さも少し落ち着いた平成22年9月11日、私達11回生は「古希を祝って」と同期会を神戸貿易センタービル24階「ステラコート」で開きました。そわそわとドキドキで会場に着き、久しぶりに会う同期生は昔の面影を少し残して懐かしい顔ばかりです。ほとんど現役引退して立派なじいちゃん、ばあちゃんです。ボランティアを頑張っている方、健康のために登山を頑張っている方、趣味に明けくれている方等々、皆さん元気です。まだ現役の方もおられ拍手です。年金の話、健康の話、孫の話と賑やかにあちらこちらで盛り上がっています。やはり青春時代をすごした仲間はすぐにうちとけます。当時のクラスは七組ありましたが、現在お元気な先生は三組の養老先生と四組の平田先生のお二人になりました。養老先生は御都合で欠席でしたが、平田先生は英語の授業を思い出すようなお変わりのない様子で感激でした。何年経っても懐かしいのは高校時代だなぁと感じながら、次は「喜寿の会」かなと皆で話しました。体調を崩している方もあるとのこと。同期生全員の健康を願って校歌合唱をし、また会える日を楽しみに閉会しました。50才ほど若くなった様な気がしてなんととも心の暖まる会でした。

### <アトラクション>

三味 (さんしん)・筆人 (ひったー)・ふみんちゅう

#### お志事内容

- 幸運と繁栄をもたらす筆文字、お名前にメッセージを書いたり、お祝いのプレゼントや座右の銘などの書き下ろしパフォーマンスをさせていただきます。
- 沖縄三線で人と自然のつながり、大地への感謝、祈りを唄います。

## 笑顔の大きな輪！16回生の集い「ゆうかり会」を開催

高16回生 松本 剛

「やあ、ひさしぶり。元気そうやね」「変わってないワ。すぐに分かったワ」。会場に笑顔の輪が広がりました。

高校16回生の同期会「ゆうかり会」は2010年11月12日、神戸ポートピアホテルで開催されました。ここ10年近くは2年に1度のペースで開かれており、今回は11回目。神田民枝先生、竹内静夫先生、梶田浩司先生、小阪康夫先生、長谷川隼彦先生に、同期生98人の103人が参加しました。

舞台正面には縦230号、横195号の巨大な「ゆうかりの木」のタペストリーが掲げられました。母校の運動場を見下ろしているゆうかりの木。井

本章君が足を運んで撮影して制作したものです。

入り口横には、かつて新学年になる度に撮影したクラス別の集合写真が展示されました。時の流れを感じさせる少しセピア色になった白黒写真は、各学年7クラス、合わせて21枚。多くの人の協力で集まりました。

懐かしいフォークダンスのメロディーが出席者を出迎え、気分は一気に高校時代へー。

会は、校歌斉唱でスタートし、この2年間に亡くなった仲間の名前が紹介されました。この仲間を含めて、すでに故人となられた恩師と級友に黙とう。恩師を代表して神田先生が「数多くの同期会に出席していますが、一番いやことは亡くなった生徒の名前を聞くこと。私より先に死んでダメ」。先立つ不孝は許しません、と万感の思いを込めて語られました。



乾杯の発声をお願いした竹内先生からは「茸高高校の発展に欠かせないのが筒台会の力で、その筒台会を支えているのが同期会。ゆうかり会は、この団結力で同期の志水会長を支えてほしい」と、激励の言葉をいただきました。

料理、アルコールに舌鼓を打ちながら、先生方も囲んでワイワイガヤガヤ。「ボランティアに明け暮れているの」「映画、旅行、ウォーキングと趣味に忙しい」「介護に追われている」「年金生活で金欠や」「第二の人生はアルバイト」「俺はまだ現役で頑張っている」などなど。

同じ趣味の仲間が集まっている「ゴルフ」「麻雀」「旅行」「食事」の会の活動がスライド付きで紹介され、展示されたクラス写真の前では「お互いに若かったなあ」と、思い出も語り合いました。

アツという間の2時間余り。フィナーレは、先生も一緒に全員が手をつなぎ、会場いっぱい大きな輪になって「春爛漫と咲き匂う…」と、生徒歌の大合唱。会の幕は、筒台会・志水利達会長の「筒台会への協力もよろしく」で、閉じました。

神田先生の思いを大切に、2年後の再会を楽しみに家路へ、二次会へー。



## 野球部OB21人が旧交を温める

昭和39年卒 高16回生 田名部 和裕 (マネージャー)

2月20日(日)、新神戸駅近くのレストランに昭和37年から41年に茸合高校を卒業した野球部OB21人が集い、旧交を温める会を開きました。

今年1月元旦の宮岸昭茂さん(昭和37年卒=捕手として活躍)のご逝去が、この会のきっかけとなりました。通夜に参列し、久々に顔を合わせた野球部OBが「故人に近い年代だけでも一度集まろう」と声を掛け合って実現しました。

筒井が丘のグラウンドで、真っ黒になって白球を追い求めた面々もすで



に初老の趣。会には当時、葺合高校野球部長で英語教諭だった大榎茂行先生（元甲南女子中学・高校校長）も出席してくださいました。最初に既に他界された松田照美元監督をはじめ、故人となられた方々の冥福を祈って黙とうをささげました。

この日集まったメンバー5年間の時代は、県下の強豪と互角以上に戦い、甲子園出場も夢ではない、といわれた葺合高校野球部全盛の時期。「あの1球」。「あの1投」。「あの1打」。そして「忘れられないあの失策」など、など。既に40年以上たったプレーを、それぞれが鮮明に覚えており、甲子園出場を目指して練習に励んだ日々の話に大いに盛り上がりました。



野球部OB会会長の寺内泰明氏（昭和41年卒＝外野手）が、近年の葺合高校野球部の活動は残念ながら低迷しており、先輩・後輩のつながりも低調だ、と報告。このような現状に、現役の活躍とOB会の活性化がともに図れるよう期待したい、との声が上がりました。



筒台会副会長の榊原充俊氏（昭和39年卒＝内野手）からは、近く母校の校舎が全面的に建て替えとなるなど、母校の状況が報告されました。現役役員には、校舎建て替えてグラウンドの利用が制約され、恵まれない環境と

なっても負けずに、奮起してくれるようエールを送りました。

会の準備段階で、これまで不明だった卒業生の連絡先などを確認することができ、かなりのメンバーの所在が明らかになりました。

会の名称は、当時の指導者だった大榎先生と松田監督のお名前から「葺合高校野球部大松会」としました。2年ごとの開催も決め、次回の再会を約して散会しました。

## 懐かしの同期会との再会

高21回生 武内 福子(旧姓 永田)

まず、この文章（原稿）にとりかかった頃、平成23年3月11日マグニチュード9.0の東日本大震災が起き、「瞬く間のみ込んだ」すべてが消えた。家が、人が、暮らしが…、私たちはテレビを通じての現場をみて、悔しい!!



3年5組  
の同期

葺合21期会還暦を祝う会

空しい!!つらい!!そして涙も出た。16年前の阪神・淡路大震災を思い出した。えっ、又か!?言葉が出ない!!被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

葺高を卒業してから42年、私達同期（※注：昭和25年4月生～昭和26年3月生）は還暦を迎えました。恩師4名、筒台会会長志水利達様御臨席のもと、平成22年11月20日ポートピアホテル30階にて各クラス代表が度重なる会合、準備した甲斐があって総勢74名が集まりました。60歳になれば友は皆、どんな年寄りになっているのか!?例えば髪の毛がない!!歯がない!!根気がない!!と色々な事を想像していましたが、これはこれは…何と元気な事!!



21期会のべっぴんさん

まだまだ元気、活発な「葺合21期生」。

この会は私達が50歳になった年に発足しました。4年毎に開催されるのですが、今回は節目の年でもあり初参加の方、遠方からの方も参加され、昔話に花が咲き、盃きを何度も重ねつつ、お互いの親睦を一層深める紳士、淑女の集まりとなりました。懐かしい思い出によみがえり、42年前の高校生の笑顔がそこにあり新しいスタートとなりました。20歳で「成人」となり今は3倍の60歳。一区切りです。各々が責任をもち「誠実に」そして人々に支えられ生きているんだなあとつくづく感じました。想い起こせば葺校の教育方針「世界の人たれ」「自主の人たれ」「創造の人たれ」の方針のもと、我々卒業生はこの言葉を未だ忘れることなく様々な分野で行動してきました。が、今年はある意味で「卒業の年」又「一」からの社会参加となります。これからは「筒台の地」で学んだ葺高の教えを忘れず残された一日一日を大切に悔いのない各々の人生を送りたく思います。

葺高は平成24年3月から「筒台の地」で全面改築が現地で始まります。時代が変わっても葺高の「校歌」は変わりません。どうぞいつまでも心の中に暗記して下さい。（校舎建て替え協力金を宜しくお願い致します。）

今回出席された方、都合出席できなかった方、連絡不備であった方、どうか筒台会報（会報協力金を宜しく願います。）を読んで次回の同期会には是非、是非出席をお願いし、21期会の「輪」「和」の広がりを望みます。

平成24年（2012年）に、お会い出来ますように。



校歌の斉唱



歓談のひとつき

## 24回生 2年2組クラス会のご報告

高24回生 大政 直人



昨年（2010年）11月20日（土）の夜、南京町にあるレストラン龍郷に17名の元やんちゃ坊主が集まった。このレストランは同級生、雷君の店である。この理系クラスは今思えばどうしてお前が理系なの？という人間が多かったような気がする。そして何よりも勉強をした、という記憶がない！（勿論中には真面目に勉強していた人もいたとは思いますが…いやいたに違いない！）

何しろ記憶にあるのは、授業中天井に向かって飛び交った「チョーク爆弾」これは椅子でチョークを粉々に砕いてレポート用紙に包み、天井に向かって投げると天井で紙が開き、粉々のチョークが頭上に舞い落ち、頭が真っ白になった被害者が突然の叫び声とともに逃げ惑う、という眠気を覚



ますには最高のイベントであった。そして休憩時間の「戦争ごっこ」。誰ともなく「戦争や〜！」と叫ぶと教室の前と後ろに分かれ、カバン、体操着、ゴミ箱、ちり取り、椅子etc.投げられるものは何でも飛び交った。そのたびの流血は当然の結果である。そればかりではない。2年5組との「仁義なき戦い」も熾烈をきわめた。廊下を使ってくり広げられるこの争いでは、何人もの男子が素っ裸にされて間にある女子トイレに放り込まれ、そのたびに女子学生の悲鳴が聞こえてきた。

いったい何が僕たちをこのようにさせたのか？単にバカだったから？それもあるかもしれないが、前年に起こり花火のようにはかなく終わった学園紛争の後遺症だったかもしれない。しかしそれから38年。みんな良いオヤジになり社会的にも重要な地位を築いている。そのほうがもっと信じられない。むしろ今のほうが夢ではないか、とさえ思ってしまう。それにしても何と素晴らしい仲間なのだろう！

「ひろがり」のHPを是非ご覧下さい。ブログにて24回生の笑顔をご覧ください。



## 筒台会24回生の交流

高24回生 兼氏 敏幸

筒台会24回生は、仲がいい。平成22年度も何度も集合して気ままに交流を深めている。まず、恒例になっている4月の第一日曜日の花見で盛り上がる。母校である葺合高校の前の公園に、ビヤ樽を持ち込んで一角を控えめに占領し、明るく、楽しく昔話を花を咲かせる。夏は、そごう屋上のピアガーデンで、これまた控えめに一角を占領し、女子バレー部の顧問であられた白井先生をお迎えてして笑した。その他、「名谷亭」と称して、定期的に落語会も催されている。会場準備から後片付け、落語の後の懇親会まで、24回生のメンバーが行い、地域のお年寄りの方も大いに楽しむという、地域貢献もしている。最後に、11月27日に経営者が同級生である「新神戸サンホテル」にて忘年会をした。当時の神田教頭先生をはじめ6人の先生方も参加され、大いに盛り上がった。その他4〜5人のプチ同窓会もよく行われている。23年度も、2月の名谷亭から幕開けした。今年ももっともっとつながりを深め広がる24回生にご期待ください。「葺合24



## 仲間・きずな、それが一つに

高24回生 進木 健三

平成23年3月11日14時46分、三陸沖に地震発生。M9.0。阪神淡路大震災を上回る規模の大地震。大津波がその規模のすごさを現す。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

阪神淡路大震災を体験した私たちは、被災地の状況を早く知るために新聞テレビを食い入るように見ました。そして、次に私たちの出来ること、いや、しなければならない事が頭の中に次々と浮かんできました。義援金。日本赤十字を先頭にあらゆる場所で行われました。私も当然何を、どのようにしようか考えました。東日本大震災は福島原子力発電所が被害を受け計画停電という経験のない事態も引き起こしました。

仲間。仙台にいる、関東地方にいる。一週間がたち電話、メール等が使えるようになった頃、確認しました。大丈夫の返事でした。郵便でも問い合わせ、今必要なものはないかと問いました。関東の方々数人から連絡があり、品不足であるが何とかあります、の返事。仙台の仲間も電気が通じているので何とかなる。その仲間もボランティアとして被災地を訪れていた。

仙台市泉区の田路和幸。東北大学大学院環境科学研究科環境科学専攻の教授。彼が石巻市の50人ほどの避難所に蓄電池をもって電気をつけている。応急処置である。その言葉。「品物が何も無い。お金があっても買うものがない。1日1食です。」関東地方の方々にお断りをして、仙台の田路に物資を送り、彼を通じて被災地の方の手助けをする。そこで24回生に救援物資の募集をする。パソコン、携帯、郵便とあらゆる手段を使い仲間に連絡しました。4月の第一日曜日、毎年葺合高校の東側ちびっこ広場で花見をしています。今年は4月3日。その日に救援物資を持って来る。来られない仲間は私の自宅へ前日までに届ける。

#### ◆4月3日

- 8:30 ちびっこ広場へ自宅に届いた物資を持っていく。  
 開箱して同商品に仕分ける。仲間が次々と物資を持って来る。  
 総勢78名。仕訳作業に当たるのは41名。  
 二人一組になり用紙に番号を書き明細を書きながら箱に入れる。梱包をするものは、それを受け取り用紙と番号を箱に貼り、すきまがあれば古新聞を詰める。  
 宅急便の配送票を貼る。仲間が次々と各々作業に加わる。
- 12:20 箱がどんどんできる。67梱包。男性が葺合高校正門まで持っていく。
- 13:00 宅急便が来る。積み込み開始。  
 13:20 積み込み完了。物資明細別紙

#### ◆4月6日

- 仙台市青葉区の東北大学に物資届く。8日石巻市の持っていくためトラック3台手配中  
 仙台市青葉区から石巻市に物資が動く。仲間の想いが届く。

阪神淡路大震災のさまざまな体験した仲間たち。東日本大震災へ行動する。地震エネルギーは葺合24ひろがりのエネルギーに連動します。仲間も東日本大震災に当時を思い起こし、支援物資へ想いを込めています。

☆このたびの出来事は、とても悲しい出来事です。家や家族や財産全てを失った日本人の同朋がたくさんでした。私達は、同情し想いに共感して救援の手をさしのべようとしています。大切なことです。でも、この様な悲惨な出来事は、我々日本人が平和を満喫していた時代にも世界中では日常茶飯事の出来事だったのです。私達は、それに無関心でいました。一部の人達をのぞき。今自分達の身近に起こって初めて気がつきました。ほんとは、阪神大震災の時に気がついてははずなのに、いつの間にか忘れてしまっていました。

☆震災当日なんでこんな事になるの？ と、胸が痛んで テレビがみられませんでした。亡くなられた方々がお気の毒でしかたがありません。何もできないと歯がゆく思っていました。24回生に混ぜてもらえて良かったです。みんなの行動力もすごい。

☆最初に、この震災を知ったのは、その時、東京の実家に居た義弟からの電話でした。埼玉の自宅に実家の無事と今日戻れないという連絡をしたのだが、電話が通じない。そこで、東京から離れたところからなら繋がるかも知れないと思い、明石の私の所に電話をしたということでした。



話を聞きながらときどきと心臓の鼓動が高まってくるのを抑え、急いで埼玉に居る妹に電話をして無事が分かりほっとしました。折り返し義弟にも自宅の無事を知らせ、テレビをつけました。そして、東北の凄まじい状態を見て、大変なことになったと思うと同時に、たくさんの方が亡くなられたのだらうと涙がでました。その後、さらに地震、津波、原発の被害が次々と明らかになって、でも、自分は何もしてあげられない、テレビを見るのもつらい日々でした。

義援金は少しずつではありますが、習い事のサークルや出先などでしてきました。

少しはお役に立てるのかなと思いながら…。今回葺合24広がりのメールで、震災から一ヶ月近くになるのに、食料や生活用品が届かない所があることや、田路さんの願い、活動を知り、私もお手伝いできればと思い参加しました。78名の思いが結集し、石巻に荷物と共にみんなの思いが届いたことと思います。一回だけにとどまらず、現地のニーズに合わせて今後も届けていこうというしっかりとしたビジョンを持って、支援していこうとする仲間が熱いものを感じました。今後もお手伝いしていきたいと思っています。

☆石巻市に物資持って行く事がわかりましたが本当に必要な物だったか不安です。

☆大震災、自然の恐ろしさと、たくさんの人が亡くなられて、本当に、本当に、悲しく思いました。一瞬、これからの日本はと心が凍り付きました。救援物資を送ろうということに感動しました。たくさんの優しい気持ちが集まって、思いが大きな力になりました。葺合24のみんなはやっぱり素晴らしい。

☆阪神大震災の悲しみを思い出しました。東北大震災、また、悲しみを思いました。人の強さ、優しさを、こころから願いました。運命に負けずに、頑張りたいと思いました。そして 葺合24のみなさんの大きな優しさ、大きな力を感じました。ひとつのちからが、ひろがって。きっと、多くのかたが、笑顔になってくれるでしょう。

☆新聞やテレビの報道番組を見ていたら 世界に類を見ない未曾有の出来事だと伝えられています。それに原発事故や風評被害等も含めた二次災害…阿鼻叫喚の世界です。こういう時だから阪神大震災を経験した我々がこの地で生きている奇跡的な偶然と必然性に対して感謝せざるを得ません。今回の物資の仕分けと花見に参加できなかったですがお世話してくださった方々寒い中お疲れ様でした。ちょうど義援金を送ったのち他に何かできることがないかと考えていた矢先のメールの呼び掛け有りがたく思いました。皆各々別の場所で生活していますが 心はひとつですね。改めて痛感しました。

☆地震がおこった時来客中でした。いつものようにすぐ治まるでしょうと、たかをくくっていましたがいつまでも揺れがおさまらず、それどころかだんだん強くなっていきました。東京(町田市)に来てから20年ほどになりますが、初めての体験でした。被害はさほどなく一安心する間もなくテレビで東北地方の被害を知り、時が止まったかのような感じでした。眼前の映像が信じられずただ知人と手を握り合っていました。全てを飲み込んだ津波が眼前を進んでいきました。あの光景を私は忘れる事はきっとないでしょう。遠い東京で、テレビの映像にさえ、こんなにも恐怖が一杯で体が固まって動けないのに、当事者の方々はどんなに怖かったらうと思うと心が痛みます。今も続く小さな揺れに飛び起きる日々が続いて



います。こんな思いの何万倍もの思いを抱え、想像を絶する厳しい現実の中、日々必死で生きる事と闘っていらっしゃる方々に、あまりに微力な私がかがゆくてなりません。我が家ではささやかでもこれから先未長く支援していく事を決めました。節電に努め、質素に生活して、少しずつでも募金を続けていこうと思っています。ニュースで知るにつけ日々問題が山積みで、心が痛みます。ここは東京(明日は我が身)と覚悟しつつ、日々感謝して過ごしていこうと思っています。何かお役に立てる事がございましたら、何なりとおっしゃって下さい。

- ☆まず田路君初め、知り合いの安否が心配でした。想像を絶する被害に、日本はどうなってしまうのか…と不安になりました。でも、絶対復興していくという確信のようなものも、感じています。今回の救援物資活動を通して、気持ちや思いは行動や言葉にして、初めて相手に伝わる事を再確認しました。これからも継続して応援していければと思っています。
- ☆男女、年齢なども把握し、被災された方が必要とされているものを聞いて送りたいですね。避難所生活も長丁場になりそうですから。
- ☆まずショックでした。有り得ない映像がテレビから流れ、どうして～という思いでした。



そして、まず私に出来る事、まず義援金でした。その後、どうしていいものかと。最低限出来る事、買いためをしないでした。救援物資に本当に声をかけていただいて嬉しかったです。私のまわりの人達も同じで、喜んでお米とか持ってきて下さいました。行動力のある同期生がいて本当に嬉しかった。葺合バンザイ

- ☆本当に必要としている所に必要な物を送る必要がある、という事です。きっと日本中の人がかがゆさを感じているのではないのでしょうか？今回は仙台で救援ボランティアをしている人の所に送った事で、きっと有効的な活用がされると信じています。

## 極楽会

神戸市立一中第4回生 (S21.3月卒)  
第5回生 (S22.3月卒)

東北地方太平洋沖地震への義援金として極楽会様より3万円を母校へお持ちいただきました。



## 筒台会 葺高祭の感想

62回生 叶 尚也

2010年6月12日、葺合高校で文化祭が行われ、今年から筒台会によるイベントが開催されることになりました。この話を聞いたとき、まさか自分たちが母校の文化祭に参加できるとは思っていませんでした。自分たちの手で母校の文化祭を盛り上げることができるという期待、しかしその反面、今年卒業したばかりの僕たちがこんな重大な役を任されていいのかという不安もありました。こんなことを任されたことはないですし、まして学校全体で初めての試み…。「できるだけいいものにしよう」、「来てくださる方全員が楽しめるようにしよう」など、幹事全員が一つになって、思考錯誤を重ねました。

当日は朝早くからたくさんの方が集まってくださって、素晴らしい会場で、企画を行うことができました。在校生のみにかかわらず、卒業生や近隣の方々、その他大勢の方が見に来て下さって、と



でも嬉しかったです。企画では葺合高校の歴史や懐かしの授業、他にもプレゼンテーションや演奏など、素晴らしいものを作ることができたと思います。練習時間も思うようにとれず、不安ばかりでしたが、なんとか成功させることができました。すべての企画が終了したあと、見に来てくださった方々からの大きな拍手は忘れられません。大変ではありましたが、それ以上の達成感がありました。

私事です、僕は高校3年生のとき、部活の引退試合が重なってしまい、葺高祭に参加することができませんでした。その時の分も楽しめたと思えるいい葺高祭だったと思います。

最後に卒業してから母校で文化祭に関わることができるとは思っていませんでした。文化祭で出会った葺合高校卒業生の友人たちから「やっぱり葺合高校を選んでよかった」という声がたくさん聞こえてきて、葺合高校を卒業したことを誇りに思います。最高の仲間、最高の先生方とともに、最高の時間を過ごせて最幸でした。特別な時間をありがとうございました。



## FSC2000親睦会

FSC2000事務局

2月26日(土) 18時から三宮の老房(ラオファン)にて第12回FSC2000親睦会を開催致しました。

今回は、テニス部OB会が開催幹事役でビンゴを交え楽しい一時を過ごすことができました。参加OB会は、野球・陸上・剣道・サッカー・バスケット・テニスの各部で老若OB・OG40名の参加で先輩後輩同期で大変盛り上がり、有意義な一夜だったと思います。

FSC2000とは何だと思われる方にご説明いたします  
葺合のF、スポーツ部のS、クラブのC、2000年に立ち上がったのでFSC2000と称しています。年1回の親睦会・年2回のゴルフコンペを実施し、各OB会同士の親睦を深めてまいりました。

次回は、野球部OB会が開催幹事役の予定になっており、又々楽しい親睦会を開催して下さる事を期待しご報告と致します。



# TOPICS

母校トピックス

## 早く広く知らせる「葺合ニュース」

広報企画部では、活動の一環として「葺合ニュース」を発行しています。「葺合ニュース」の目的は大きく2つあります。まず在校生の保護者や地域の方々に葺合高校の生徒のがんばっている姿を広く知っていただくためです。2つめには、中学生とその保護者及び中学校の先生方に葺合高校の生の姿を知っていただき、進路を決定するときの参考にさせていただくためです。

この目的のためにやってきたことは以下の通りです。

- ①行事ごとに「葺合ニュース」を発行し、広く関係者に配布  
(例. オープンキャンパス、オープンハイスクール、葺合祭、体育大会)
- ②中学校訪問や中学校向け進路説明会での「葺合ニュース」の配布
- ③「葺合ニュース」を拡大して、行事終了直後に校門わきに掲示
- ④筒台会、筒友会などの会で配布

広く人々に葺合高校の活動の様子を知っていただくために、これからも鋭意「葺合ニュース」を発行し、広報活動を活発に進めていきたいと思っております。

平成22年4月27日  
神戸市立葺合高等学校 広報企画部

## FUKIAI NEWS No.2 2010

### 「世界一大きな授業」行われる



4月20日(火)の7時間目に、2年国際科・英語系生徒を対象に「世界一大きな授業」が行われました。この授業は、世界中の子どものための教育を願うキャンペーンとして、全世界で同じ日に、同じ教材を用いて行われるもので、2008年には世界で885万人が参加し、ギネス記録として公認されています。

今年は、ワールドカップが行われるアフリカの子供たちが教育を受けられない現状と、その原因、解決に向けての取り組みについて学習をしました。このキャンペーンを行っている事務局の発表によると、今年は日本で351校 41,940人がこの授業に参加し、本校もその1校として121人が参加しました。

授業を受けた生徒たちは、世界には学校にいけない子供たちが大勢いること、また、それが貧困や紛争、女性や少数民族に対する偏見・差別などに原因があることを知り、自分たちができることが何かを真剣に考えていました。

#### 【生徒の感想より】

ギネスに協力していると思うと凄いなと思います。日本は全体的にみると裕福で過ごしやすいため、世界の子供たちのつらい状況について身にしみて感じることは少ないのですが、今回の授業で子どもが働いていることなどを知り、大変だなと思いました。まずは、そういう人たちがいることをちゃんと知って、何か小さなことから始めて行きたいと思っております。



平成 22年 6月 15日  
神戸市立葦合高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS

No.6 2010



歩みだせ きらめけ  
愛でいっぱい葦愛 smile

## 葦高祭開催！

6月11日(金)、12日(土)の両日、本校の文化祭「葦高祭」が開催されました。11日(金)は校内祭。各クラスや文化部によるステージ演技が全校生の前で披露されました。



12日(土)の一般祭では、文化部や1年生の展示、模擬店、ステージ演技などが催され、保護者の方や地域の方など一般の方にも大勢来校いただき、今年のテーマ通りの笑顔いっぱいの一日となりました。

平成 22年 6月 30日  
神戸市立葦合高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS

No.9 2010

## スコットランド グローブアカデミー来校



6月15日(火)から6月23日(水)までの8日間、スコットランドにある本校の姉妹校グローブアカデミーから、生徒16名、引率教員2名の計18名が本校を訪れました。この期間中、グローブアカデミー生徒は本校生徒の家庭にホームステイしながら本校に通学して体験授業や文化交流をし、また神戸や奈良市内の観光などをしました。



この8月には、本校生徒16名がグローブアカデミーを訪問し、2週間のホームステイと授業体験や交流を予定しています。生徒たちは、また夏に会えることを楽しみにしてグローブアカデミーの生徒たちを見送りました。



平成 22年 8月 25日  
神戸市立葦合高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS

No.11 2010

## 高校生と英語で遊ぼう —小学生向け英語教室開催—

8月3日(火)、4日(水)の両日、神戸市中央区の葦合公民館で小学生対象の英語教室が行われました。この英語教室では、毎年葦合高校の生徒が小学生向けに英語を使ったゲームなどを考えて、英語を使う楽しさなどを体験してもらっています。今年は、国際科2年生10名が自己紹介ゲームや、歌、ダンスなどのプログラムを考えて、集まった14名の小学生たちと楽しみながら英語に触れる時間をもちました。

この葦合公民館での小学生向け英語教室は今年で8年目となり、毎年の行事として定着しています。この英語教室はプログラムを考える葦高生にとっても、教える立場に立つて英語を考える機会として貴重なものとなっています。葦合高校では、英語を話す楽しさをひとりでも多くの小学生に体験してもらえよう、これからもこの英語教室を続けていきます。

【アンケートより】

[小学生]

- ・ ゲームが楽しかったし勉強も楽しかった。数字はちょっとむずかしかった。
- ・ 高校生のみんながやさしく教えてくれたのでうれしかったです。
- ・ 高校生のお兄ちゃんお姉ちゃんたちといっぱい遊べて楽しかった。
- ・ いろいろな英語の単語が、遊びながら覚えて勉強になりました。
- ・ 発音などを具体的に教えてもらったのでよかったです。わからない単語なども教えてくれました。

[保護者]

- ・ また参加できたらいいと思います。役に立つことを教えてくれてよかったです。
- ・ 高校生が一生懸命にしてくれる姿がうれしかったです。うちの子も大きくなってあんなふうに小さい子に優しくできる子になってくれたら・・・と思います。



平成 22年 8月 27日  
神戸市立葦合高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS

No.12 2010

## イングリッシュサマーセミナー開催

8月24日(火)、25日(水)の二日間、兵庫県高等学校野外活動センターあさぎり寮にて、本校1年生を対象としたイングリッシュサマーセミナーが行われました。



このイングリッシュサマーセミナーは、毎年1年生の希望者を対象に一泊二日の日程で、英語だけで生活することでより深く英語になじむとともに、多くの外国人講師とふれあうことで外国の文化についてもより身近に感じる機会として行われるものです。

今年参加したのは1年生87名、外国人講師の先生方が16名、葦合高校卒業生4名。外国人講師の先生方が中心となり、参加生徒はネイティブスピーカーと2日間共に過ごし、生きた英語や彼らの国の文化を楽しく学ぶことができました。

始めは緊張していた生徒たちも、趣向を凝らしたゲームや歌などの活動を通して自ら積極的に外国人講師と英語で話し、いきいきとした表情で活動に取り組んでいる様子がうかがえました。

メインの活動であるスキットについても外国人講師と共に各グループ英語で準備をすすめ、どのグループも立派に発表することができ、大いに盛り上がりました。



平成 22年 9月 6日  
神戸市立葦台高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS No.13 2010

## 少林寺拳法部 全国大会で決勝ラウンド出場!



少林寺拳法部は、6月に行われた兵庫県大会で女子組演武規定の部および女子団体総合で2位に入賞し、7月31日・8月1日に埼玉県深谷市で行われた全国大会に出場しました。

全国大会に出場したのは女子組演武の部は2年生の福島瑞歩さん、佐藤由姫乃さんの2名、女子団体は3年生の中尾友香さん、岡崎らん葉さん、鷹尾成美さん、および2年生の中原千花さん、田邊葉さん、馬場万恵さん、藤木彩乃さんの7名。団体は惜しくも予選で敗退しましたが、規定組演武の部は予選を勝ち抜き決勝ラウンドに出場しました。

少林寺拳法の組演武は、二人一組となって、防御・反撃の技法を自在に組み合わせ、その正確さや表現力を評価する種目です。

少林寺拳法部は10月には神戸市大会、11月には兵庫県新人戦、12月には近畿大会と競技会が予定されており、それらの大会に向けて練習に励んでいます。



(団体予選の演技)

平成 22年 9月 17日  
神戸市立葦台高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS No.15 2010

## スコットランド短期海外研修



8月17日(火)から8月28日(土)まで、夏季短期海外研修が行われました。今年度は1・2年生計16名がスコットランドの姉妹校、グループアカデミーを訪問し、ホームステイをしながら授業体験や文化交流を行い、またスコットランドの歴史・文化に触れる活動もしました。



を持って書いたり、お茶を点てる動作を体験してもらいました。

参加した生徒たちにとっては、スコットランドの文化・歴史に触れることはもちろんよい体験でしたが、それ以上にホームステイ先のホストファミリーとの触れ合いが、もっとも印象深いことだったようです。

葦台高校では毎年夏に短期海外研修を行っています。来年はスウェーデンの姉妹校を訪問する予定です。



### 【研修アンケートより】

- ・ホストファミリーのお父さん、お姉さんが日本の歴史やくらし、建造物にすごく興味を持ってたくさん聞かれたのだが、英語力がなさすぎて簡単なことしか教えてあげられなかった。日本(母国のこと)をもっと勉強しておけばよかったと思いました。

平成 22年 11月 11日  
神戸市立葦台高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS No.22 2010

## スウェーデン フェニックス高校との交流



11月1日から本校を訪れていたフェニックス高校との交流も今日11日が最終日となり、校内の会議室で交流会が行われ、両校の記念品の交換に続いて、本校生とフェニックス高校生とがそれぞれ歌を披露するなどして、別れを惜しまれました。

フェニックス高校生の一行は、12日朝、新幹線で東京に向かい、東京観光の後、スウェーデンに帰国する予定です。



平成 22年 12月 24日  
神戸市立葦台高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS No.26 2010

## 2年生、台湾修学旅行へ

12月14日(火)から3泊4日の日程で、2年生の台湾修学旅行が行われました。台湾ではあいにく雨天がちでしたが、台中にある姉妹校の台中一中との交流や、現地の大学生ガイド共に行動する班別の台北市内研修、クラス別の台北郊外の観光などを楽しみました。



台中一中では、全体セレモニーで合唱曲「Cantare (カンターレ)」を日本語と中国語の両方で披露し、その後各クラスごとに台中一中生とともに昼食をともにし、その後文化交流をしました。



また、台北市内では龍山寺、忠烈祠、中正紀念堂などを見学。台北近郊では九份、烏來、十分を見学しました。

今回の修学旅行ではクラスごと、班ごとの行動だけでなく、昼食や夕食もクラスごとにレストランを設定した日を設け、クラスのきづなを深める機会ともなりました。

葦台高校の海外修学旅行は、国際科設置の平成13年度国際科入学生のみから始まり、平成15年度入学生からは国際科・普通科全員で行くことになり、平成17年度入学生から台湾への修学旅行となって現在まで続いています。来年度、平成23年度入学生も台湾への修学旅行が予定されています。



平成23年2月25日  
神戸市立葦合高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS No.31 2010年度

## インターナショナルデー



2月23日(水)の5・6校時に、1年生を対象としたインターナショナルデーが行われました。当日は世界23カ国出身の43名の外国人の方にゲストとしておいいただき、講堂での全体交流行事と各クラスに別れての交流活動が行われました。



全体交流行事では、オーストラリアのダニエルさんからオーストラリア北東部での洪水の被害の状況について現地の写真なども交えて説明があり、ボランティア活動をしている本校さぎな会のメンバーから教授募金の呼びかけをしました。その後、世界の国々についてクラス対抗でクイズをし、各クラスの代表が各国のダンスや言葉で舞台上で体験するなどして楽しみました。



その後各クラスに6名ずつ外国人ゲストが参加して、グループに分かれて交流を楽しみました。

### 【日番日誌の感想より】

インターナショナルデーだった5・6時間目、すごく盛り上がりました!!英語で話すことはすごく難しいことでしたが理解する努力をしたので、その努力が今後に生かせたらなあと思いました。外国の人とたくさんのコミュニケーションがとれました。楽しかったし、とても良い経験になりました。

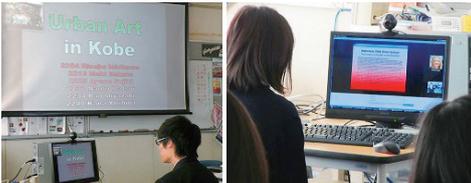


平成23年3月8日  
神戸市立葦合高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS No.34 2010年度

## フィラデルフィアの高校とテレビ会議

3月8日(火)午前8時30分より本校の第2コンピュータ室で、フィラデルフィアの高校生とのインターネットを利用したテレビ会議が行われました。本校からは

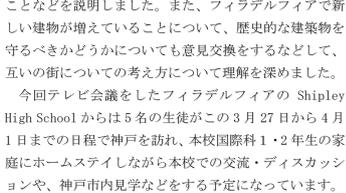


国際科2年生が参加し、IA(国際事情)の授業で取り組んだテーマの一つのUrban Art(街中のアート)について、写真などを交えて英語で紹介しました。

フィラデルフィアのShipley High Schoolからは、フィラデルフィアの音楽のことやフィラデルフィアにある歴史的な建築物と新しい建築物について写真やスライドを用いて紹介されました。

それぞれの紹介の後に互いに質問をしましたが、フィラデルフィアの高校生からは最近の日本の建築の様子についてや、神戸での街中の音楽活動などについて質問があり、葦合生は最近の都会では伝統的な瓦屋根の家や畳敷きの部屋などが少なくなっていることや、神戸ジャズストリートのことなどを説明しました。また、フィラデルフィアで新しい建物が増えていることについて、歴史的な建築物を守るべきかどうかについても意見交換をするなどして、互いの街についての考え方について理解を深めました。

今回テレビ会議をしたフィラデルフィアのShipley High Schoolからは5名の生徒がこの3月27日から4月1日までの日程で神戸を訪れ、本校国際科1・2年生の家庭にホームステイしながら本校での交流・ディスカッションや、神戸市内見学などをする予定になっています。



平成23年2月28日  
神戸市立葦合高等学校 広報企画部

# FUKIAI NEWS No.33 2010年度

## 平成22年度卒業証書授与式

2月28日(月)、平成22年度卒業証書授与式が行われました。今年度の卒業生は国際科8回生81名、普通科63回生197名の計278名。クラスごとに呼名のうち各クラス代表に卒業証書が校長より授与されました。



校長式辞では、卒業生が不透明な今の時代の未来を切り開く人になることを期待しており、そのためにこれからも勉学に励むだけでなく、人との出会いを大切に、自分自身をもっと豊かにし、広い視野を持って社会を眺めることができる眼を身につけてほしいという励ましの言葉が述べられました。

また送辞では、在校生代表として2年生の浅野君が「鍛錬千日、勝負一瞬」という言葉を引用して、卒業生がこれまでの鍛錬の成果を生かしてそれぞれの道で活躍することを願っていることを述べました。

答辞は卒業生代表の松原さんが、葦合高校で手に入れた最も価値のあるものは一緒に考え、相談し、悩みを分かち合い、楽しさを分かち合った友達であり、この278人がこの葦合高校に集まったことに感謝したいと述べました。

最後に、この3年間を見守り育ててくれた3学年の先生方に見送られて、卒業生は講堂を後にしました。



## フェニックス賞

このメダルは本校菊川晋久元教諭の作である



メダルは金賞、銀賞及び銅賞

母校では、学校生活や地域社会における諸活動に、特に積極的、継続的に取り組んだ生徒を表彰するためにフェニックス賞を設けています。下記の部門があります。

- 3か年皆勤の部(金賞)
- 2か年皆勤の部(銀賞)
- 1か年皆勤の部(銅賞)
- 奉仕活動の部
- 研修の部
- 努力の部
- 部活動の部
- 生徒会活動の部
- 善行の部
- HR活動の部
- 国際交流の部

### 平成22年度卒業生受賞者数 155名

3か年皆勤の部	49名	部活動の部	33名
2か年皆勤の部	25名	生徒会活動の部	5名
1か年皆勤の部	17名	努力の部	26名

### 「フェニックス賞」の由来

フェニックスは本校玄関前にそびえる大樹であり、また、灰の中から何度も生まれ変わる霊鳥の名前でもあります。大樹のようにたくましく、不死鳥のようにいききと、本校生徒が育つようにという願いを込めて名付けられました。

平成22年度

部活動の主な成績

【運動部】

陸上競技部

- 県総体 男子 三段跳 第8位

体操部

- 県総体 女子団体 第9位
- 県新人大会 女子団体 第6位

なぎなた部

- 県総体 女子団体 第4位
- 県新人大会 女子団体 第7位
- 県選抜大会 女子団体 第7位

女子ハンドボール部

- 県総体 ベスト16
- 県新人大会 ベスト16

少林寺拳法部

- 県総体 女子組演武初段の部 第4位・5位  
女子組演武規定の部 第2位  
女子団体演武の部 第2位  
※以上 全国大会出場
- 県新人大会 男子自由組演武の部 第6位  
女子規定組演武の部 第2位・5位・6位  
女子団体演武の部 第2位  
※以上 近畿大会出場
- 近畿大会 女子規定組演武の部 第5位・7位  
※以上 全国大会出場

【文化部】

吹奏楽部

- 県アンサンブルコンテスト サキソフォン四重奏 銀賞

コーラス部

- 全国高等学校総合文化祭 合唱の部 出場  
神戸市歌ひろめ隊 任命

美術部

- 県小・中・高校絵画展 入選

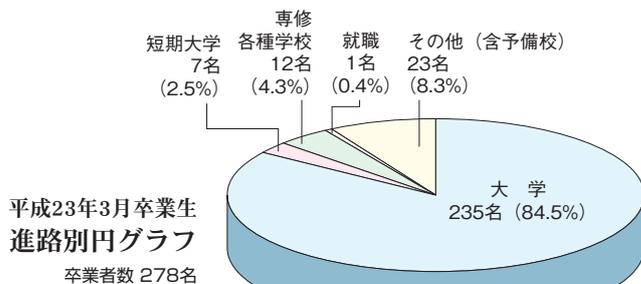
写真部

- 県春季フォトコンテスト 佳作

平成23年度

卒業生進路状況

※ 数字はすべて延数で、既卒者も含む  
※ 個人情報保護の観点から連絡のない大学・予備校等もあるため、実際はもう少し多いと思われます。



国公立大学

北海道教育大 1	国際教養大 1	筑波大 1	東京外国語大 1
静岡大 1	静岡県立大 1	金沢大 1	和歌山大 1
大阪大 5	大阪府立大 1	神戸大 13	神戸市外国語大 12
神戸市看護大 1	兵庫教育大 1	兵庫県立大 4	岡山県立大 1
岡山県立大 1	徳島大 2	愛媛大 1	高知大 1
島根大 1	山口大 1	山口県立大 1	

23大学54名

私立大学

早稲田大 5	慶應義塾大 3	上智大 3	立教大 1
中央大 5	明治大 5	青山学院大 2	日本大 1
同志社大 31	同志社女子大 4	立命館大 29	京都産業大 7
龍谷大 6	京都女子大 5	京都外国語大 7	関西大 66
近畿大 46	関西外国語大 20	大阪医科大 1	関西学院大 89
甲南大 66	甲南女子大 8	武庫川女子大 14	神戸薬科大 2
兵庫医療大 5	神戸女学院大 15	神戸学院大 39	立命館アジア太平洋大 3

など60大学552名

短期大学（短期大学部を含む）

関西外語短大 1	神戸山手短大 1	武庫川女子短大部 2	頌栄短大 4
----------	----------	------------	--------

など6大学10名

専修各種学校

大阪警察病院看護専門学校 1	大阪済生会中津看護専門学校 2	大阪労災看護専門学校 1	など15校16名
----------------	-----------------	--------------	----------

公務員

1名

## 平成23年度筒台会役員(案)

## 顧問(常任)

9代校長	神田民枝
10代校長	竹内静夫
12代校長	絹笠清
13代校長	大月民義
15代校長	小嶋良平
16代校長	山崎秀昭
17代校長	油谷健夫
18代校長	二宮尊志
19代校長	田中一好

## 相談役(常任)

中3	名村嘉之
中5	三木谷良一
高8	北風雅頌
高8	山西乙平
高8	久本捷
高11	松宮功

会長	高16 志水利達		
副会長	高16 榊原充俊	高17 渡部隆	高18 古川浩
東京支部長	高17 渡部隆		
役員	高16 村井治美	高19 木村晃子	高20 森本克幸
	高21 達脇寛	高21 武内福子	高22 坂本裕子
	高22 石谷健次	高23 芦田尚	高23 大庭義弘
	高24 黒田勇	高24 進木健三	高33 遅秀蘭
会計	高27 坂口秀昭	高33 増田精三	高38 谷口昌樹
会計監査	高11 小林寛子	高33 村松公人	
事務局	高27 北風公基	高39 兼子美佐	高40 村上ひろ子
	高41 辻本正子		

## ◆平成23年事業計画(案)◆

## 1. 運営基盤の確立

## (資金面)

- ・運営協力金(校舎建替関連協力金)・会報協力金のお願い
- ・HPバナー広告のお願い
- ・会報の広告協賛のお願い

## (施策面)

- ・活動しやすい組織の確立  
(委員会組織で委員長に権限移譲)
- ・役員会を活性化し、決定事項を実行する
- ・情報の共有化・見える化
- ・筒台会会員名簿の整備

## 2. 母校の新校舎建設に対する協力体制を作る

## 3. (葺高祭) ホームカミングデーの開催・同窓生の動員

- ・6月11日(土) 葺高祭(予定)

## 4. 会報・HPの内容の充実

## 5. 東京支部・同期会・OB会への支援

## 6. 母校へのバックアップ体制の支援

- ・フェニックス賞の贈呈支援
- ・部活動への支援



後列左から 増田精三、村松公人、武内福子、小林寛子、黒田勇、  
村井治美、坂本裕子、遅秀蘭、谷口昌樹  
前列左から 達脇寛、榊原充俊、志水利達、渡部隆、進木健三、  
坂口秀昭

## 神戸市立葺合高等学校 筒台会

## 平成23年度 定時総会

- 日時 平成23年6月25日(土)

定時総会 5:00PM~

懇親会 6:00PM~

- 場所 第一楼 神戸市中央区江戸町94番地

## ◆議事次第◆

1. はじめのことば
2. 会長の挨拶
3. 来賓の挨拶
4. 議長選出
5. 第1号議案 平成22年度会務報告
6. 第2号議案 平成22年度会計報告
7. 第3号議案 平成22年度会計監査報告
8. 第1・2・3号議案質疑応答及び承認を求める件
9. 役員改選の承認
10. 第4号議案 平成23年度事業計画案
11. 第5号議案 平成23年度予算案
12. 第4・5号議案質疑応答及び承認を求める件

## 13. 筒台会東京支部活動現状報告

## 14. おわりのことば

## ◆懇親会◆

1. はじめのことば
2. 新会長のあいさつ
3. 来賓の挨拶
4. 助成金の贈呈
5. 乾杯の音頭
6. 会食および歓談  
ご出席の恩師並びに同窓生の方々からのお言葉をいただく
7. 万歳三唱
8. おわりのことば

◎平成22年度 決算報告書◎

◇経常費

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	9,520,216円	総会費	1,870,856円
会費	2,815,027円	会議費	347,239円
総会参加費	672,000円	事業費	1,758,399円
会報協力金	1,965,660円	(内訳)	
(内訳)		事業費	295,999円
会報収入	1,330,840円	国際協力金	200,000円
会報広告料	634,820円	部活動支援金	300,000円
雑収入	295,988円	卒業記念品	562,400円
(内訳)		教育推進費	400,000円
パンナー広告料	119,920円	通信費	739,106円
寄付金	161,880円	印刷費	896,490円
受取利息	14,188円	慶弔費	225,983円
		交通費	60,400円
		東京支部助成金	300,000円
		事務費	15,306円
		小計	6,213,779円
		次年度繰越金	9,055,112円
合計	15,268,891円	合計	15,268,891円

※次年度繰越金の状況

経常通帳	1,276,382円
定期預金	2,598,436円
郵便貯金	775,291円
郵便振替	4,158,960円
現金	246,043円
	9,055,112円

◇賛助会費

収入の部		支出の部	
22年度繰越金	5,943,204円	次年度繰越金	5,955,070円
受取利息	11,866円		
合計	5,955,070円	合計	5,955,070円

※次年度繰越金：5,943,204円の状況

普通預金	10,099円
定期預金	5,944,971円
	5,955,070円

◎平成23年度 予算(案)◎

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	9,055,112円	総会費	1,800,000円
会費	3,024,000円	会議費	300,000円
運営協力金	500,000円	事業費	1,500,000円
(校舎建替関連協力金)		(内訳)	
		事業費	200,000円
		国際協力金	200,000円
		部活動支援金	300,000円
		卒業記念品	500,000円
		教育推進費	300,000円
総会参加費	1,000,000円	通信費	1,000,000円
会報協力金	2,100,000円	印刷費	1,000,000円
(内訳)		慶弔費	200,000円
会報収入	1,500,000円	交通費	200,000円
会報広告料	600,000円	東京支部助成金	300,000円
雑収入	534,000円	東京支部特別助成金	100,000円
(内訳)		事務費	100,000円
パンナー広告料	120,000円	小計	6,500,000円
寄付金	400,000円	次年度繰越金	9,713,112円
受取利息	14,000円	合計	16,213,112円
合計	16,213,112円	合計	16,213,112円

◎会計監査報告◎

上記の決算報告は会計監査の結果正確であることを認めます。

平成23年 4月10日

会計監査 小林 寛子

会計監査 村松 公人

❖ 平成22年度会務報告

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

開催日時	出席者数	内容	出席者数	会場
① 平成22年4月8日(木) 「入学式」	役員5名	母校	13名	神戸市勤労会館
② 平成22年4月8日(木) 「役員会」本年度予算案策定、前年度会計監査、会報43号発行他	14名	神戸市勤労会館	役員5名	母校
③ 平成22年4月15日(木) 「役員・幹事総会」前年度決算・監査報告、本年度事業計画、予算案、総会・懇親会開催他	41名	神戸東急イン	12名	神戸市勤労会館
④ 平成22年4月24日(土) 「会報43号校正作業」	8名	神戸ポートピアホテル	14名	神戸市勤労会館
⑤ 平成22年5月19日(水) 「役員会」ホームカミングデー、会報43号発行、総会・懇親会他	18名	神戸市勤労会館	11名	神戸市勤労会館
⑥ 平成22年6月4日(金) 「総会会場現地打合せ」	役員4名	神戸ポートピアホテル	11名	第一樓
⑦ 平成22年6月5日(土) 「ホームカミングデー実行PJ」	役員・スタッフ7名	母校	11名	神戸市勤労会館
⑧ 平成22年6月12日(土) 「筒台会ホームカミングデー」	役員・スタッフ約30名動員 (記帳約200名)	母校	11名	神戸市勤労会館
⑨ 平成22年6月16日(水) 「役員会」総会・懇親会最終打合せ、葺高祭「筒台会ホームカミングデー」開催報告、「東京支部総会」出席報告他	15名	神戸市勤労会館	役員3名	母校
⑩ 平成22年6月26日(土) 「筒台会総会・懇親会」	260名参加	神戸ポートピアホテル 催祭	役員4名	母校
⑪ 平成22年7月21日(木) 「総会・懇親会の総括並びに打ち上げ」	14名	鳥孝	11名	神戸市勤労会館 (田阪校長、市学校計画課長他1名)
⑫ 平成22年9月15日(水) 「役員会」総会・懇親会の収支報告、インターネット回線・プロバイダー契約解除の提案他				
⑬ 平成22年9月20日(祝) 「体育大会」				
⑭ 平成22年10月20日(水) 「役員会」インターネット回線・プロバイダー契約解除の報告、会則PJ解散および名簿委員会設置の提案他				
⑮ 平成22年11月17日(水) 「役員会」次年度予算編成、名簿委員会設置他				
⑯ 平成22年12月14日(火) 名簿委員会開催(12月13日)報告、次年度予算編成、会報44号発行他				
⑰ 平成23年1月20日(木) 「役員会および新年会」次年度予算編成、名簿委員会、次年度役員・幹事総会及び総会・懇親会他				
⑱ 平成23年2月9日(水) 「役員会」次年度予算編成、次年度役員・幹事総会日程、会報44号発行・広告募集、次年度総会・懇親会他				
⑲ 平成23年2月22日(火) 「筒台会入会式」				
⑳ 平成23年2月28日(月) 「卒業式」				
㉑ 平成23年3月9日(水) 「役員会」校舎改築の説明、次年度役員・幹事総会開催、会報第44号発行他				



- ①河村 雄行 (かわむらかつゆき)
- ②東京工業大学  
理工学研究科地球惑星科学専攻教授 (1991年より)
- ③昭和45年卒・第22回生

- ④岡山大学 (学部・修士) → 東京大学地質学科 (博士・助手) → 岡山大学温泉研究所 (三朝。助手) → 北海道大学理学部化学科 (助手・助教授) → 東工大と変遷してきました。マルセイユとマンチェスターにあわせて2年間居住して研究しました。セザンヌの描いたサンビクトワール山の中腹に7か月住みました (結晶成長機構研究所)。コンピュータ誕生の聖地の1つのマンチェスター大学のスーパーコンピュータを使い倒しました。WLプラグが実験したX線研究室で英国人に結晶学実験法を教えた。
- ⑤地球惑星物質・環境・材料物質の電子構造からマクロ物性まで、理論 (量子と統計力学) と実験 (X線、赤外、その他) による研究をおこなっています。  
分子シミュレーション研究会 (会員200人余りの小さな学会) 会長、小学校での理科講義はできる限り引き受けています。
- ⑥小学校の時から理科好き。葺合でも特に物理好き。大学浪人のときに読んだいくつかの本で、プレートテクトニクスに基づいた新しい地球科学の創生が1970年代に行われつつあることを知ったこと  
また、コンピュータが少しずつ一般人にも姿を現わしつつあったこと (NHKのコンピュータ講座が始まった)。  
コンピュータを研究するか (電子工学・情報科学)、コンピュータを使って科学 (計算科学) をするか、を天秤にかけ、後者を選択した。
- ⑦紆余曲折はあったが自分の実験室を自分の思うように創りあげてくれたことが良かった。必要な実験装置を手に入れるために予算を得るためにはちょっと苦労した。  
また、私の開発した分子シミュレーション計算プログラムが世界のかなりの研究者 (200人以上) に利用されていることと、自分の書いた本を講義に用いている大学教員が何人かいることがうれしい。
- ⑧私の科学が、社会の役に立つこと。実際に、放射性廃棄物の地層処分などに関して、私たちが創りあげつつある手法: ナノ〜マイクロマクロ力学—化学統合解析が、マクロな長期挙動予測に役に立ちそうである。そのために2012年4月から岡山大学環境学研究科に移ります。
- ⑨受験勉強せずに高校生活をおくれたこと。そのかわり浪人した。大司数学学院 (予備校) で遊び、友人を得た。
- ⑩やりたいと思うことがあることは必要だが、さらにそのことを一生懸命に知ろうとすることが重要。高校や大学教養課程などで学んだことを含め人生・生活のいろいろな局面から学び、役立てようとするのが良いと思う。目の前のチャンスは放っておいても、大目標を達成しようとすることも必要。

## Profile Interview

葺合高校OB・OGで各界、各層で活躍しておられる方々にお聞きしました。

- ① 氏名
- ② 職業
- ③ 卒業年度
- ④ その他
- ⑤ 現在の活動状況
- ⑥ この道に入るきっかけ
- ⑦ この道に入って  
一番うれしかったこと苦しかったこと
- ⑧ 将来の目標
- ⑨ 葺高時代の一番の思い出
- ⑩ 筒台会会員に一言

# この人に聞く



- ①稲泉 綾二 (いないずみりょうじ)
- ②大阪国際大学  
現代社会学部情報デザイン学科・教授
- ③昭和47年3月卒 (高24回生)

- ④デジタルハリウッド大学院客員教授・サイバー大学世界遺産学部客員教授・映像プロデューサー、映像音響技術者、デジタルアーキビスト、知財権管理者
- ⑤大学で映像・音響系のポストプロダクション技術、コンピュータグラフィックス、文化情報学などを教えています。「デジタルコンテンツ」と呼ばれる領域でデジタル映像、音楽、写真、デジタルアーカイブ (世界文化遺産) などの制作技術の指導や制作論が主たるテーマです。いわゆるコンピュータやマルチメディア機器を使って映像作品・音楽作品の制作や企画開発する研究と人材の育成です。また、文化情報産業という観点から展示施設、テーマパーク、観光情報、地域景観デザイン、ステージビジネスなどの関連分野も専門課程と大学院で指導しています。
- ⑥関西学院大学社会学部でメディア論を勉強した後、報道カメラマン・編集者として日米の放送局で仕事をする中で神戸大学大学院 (文化学研究科) へ進学し、当時は新しい分野であった情報社会学・情報人類学と映像音響施設論 (メディア学で工学研究科にも在籍しました) を専攻しました。当時は、パソコンが浸透し始めた頃で、コンピュータ技術の普及に伴い文化産業がデジタルメディア化していく現象に興味を持ち、この分野に傾倒していきました。  
大学院在学中から産業振興を目的とした半官半民の研究所で産業高度化担当研究員 (システムエンジニア) を務め、独立後は博覧会 (花博や海外出展)、ミュージアム、テーマパーク、観光ビジネス、ステージ



フィンランドでの講演を依頼された時にビールを飲みながら観光しました。

ビジネスのマルチメディア化を担う専門家として多くのプロジェクトを体験しました。

90年代からは、「世界文化遺産」のデジタルアーカイブプロジェクトにも参加し、国内外の文化遺産の撮影、CG化のスタッフを務め、文科省認定のデジタルアーカイブ製作者に認定されました。

大学や専門学校での教員は2000年頃から始めましたが、大阪国際大学に情報デザイン学科が設立されるとともにデジタルコンテンツの教授として招聘されました。

難しそうに書いていますが、実はゲームやアニメ、キャラクター、音楽、Webデザイン、デジタル小説などの商業作品の制作も軽〜くやっています。小中学生時代には苦手だった音楽ですが、いまでは作曲も教えている事に自分でも驚いています。

- ⑦ 楽しいことは、撮影、調査、制作の現場が好きなので、世界中に出かけて異文化を相手に勝負できることです。とにかく何処に行っても勉強になります。また、仕事柄タレントやモデル、芸人、映画監督、俳優さんなどのコラボレーションもあり、多彩な才能と会えることも嬉しいです。苦しいことは、すべて忘れることにしていますので書くことがありません。
- ⑧ スタッフとしてアカデミー賞が取りたいです（笑）。少なくとも若い人材を多く育てたいですね。最前線を担うだけの世代ではなくなってきたみたいですから。

- ⑨ やはり学生運動という時代の背景ですね。それと演劇部での参加経験と2年生の時にワシントン州シアトルに交換留学で行ったことです。カルチャーショックがありましたから。これらがなかったら今の職業についていないかもしれません。
- ⑩ 多くの実績がありますので、撮影、演出など展示事業、文化事業、町おこし事業などのお手伝いがあれば無料（格安?）で行います。優秀な学生やスタッフを派遣させますよ（笑）。



## Leisei Chen レイセイ・チェン

旧姓：陳麗生  
37回卒業生

(レイセイチェン) の名でジャズ・ボーカリスト&ミュージシャンとして伝説的ジャズ・バイオリニストで夫のマイケルホワイトと共にバンドMichael White Quintet で国際的に活動中。

華僑として生まれ、国際色豊かな神戸山手で育った私は葺合高校の英語科初代生だ。甲陽音楽学院ジャズ科を卒業し、「ネイティブの英語で自分ならこの歌をどう表現するだろうか、芸術を通して自由に個性的に自分を表現したい」そんな思いで1990年に渡米した。

シアトルで芸大ジャズ科に所属したが、生のジャズの学び場「ジャムセッション」通いの日々が続いた。本場のジャズに触れ、ジャズのマスター達との演奏と交流から人生、ジャズ、米国社会の明暗を深く学び、シビアな演奏の場で揉まれた事がジャズ・アーティストとしての私の大きな支えになっている。

元ルイ・アームストロングのベーシストで甘い音色で乙女=バディ・キャットレット=、空手は黒帯の腕前で豪快に笑う元マックス・ローチのピアニスト=ビリー・ウォレス=、歌うように奏でる元ビリー・ホリデイのドラマー=ディック・バーク=、3世代ジャズ一家に育った天才ピアニストで恩師の=ジェローム・グレイ=、今日あった事を歌え=アートブレーキーの娘=エヴリン・ブレイキー=と数えきれない。大物ほど気さくでオープンで親切で自ら愛するジャズの神髄を惜しみなく伝授してくれた一私の宝珠である。

### 「Jazz Is Life」

渡米した当初、音楽の傍ら生活のためにした仕事のストレスで心身を壊すことが何度もあった。医療費が高んで途方に暮れた。離婚も2度経験した。全てを失ったが、2000年に音楽・芸術をライフワークにしようと決意することでようやく本来の自分を取

り戻した。癒しとしての音楽の役割も身をもって経験した。アーティストになって本当に良かったと思う。そんないろんな経験も自分の音楽表現としてSOUND・歌声に織り込まれ、音の深みとなって国境・人種の枠を超えて聴いてくださる人達の心身に伝わり、歓喜と癒しとなっていくんだなあと舞台に立つたびに実感している。

今そんな波瀾万丈な私の人生をひっくり返して公私共に支えてくれる良きジャズパートナーである夫は、アメリカでLiving Legend、日本ではSpiritual Jazz Masterと称されるジャズ・バイオリニストのマイケル・ホワイトだ。彼と共に今LAを拠点に、のびのびと大きな夢を持って自らのバンド=Michael White Quintet=をひっさげ、世界演奏旅行に向けて充実した音楽生活を営んでいる。



photo : ゴトーマサミ

平成23年度

KOBE

筒台会総会・懇親会のご案内

●日時

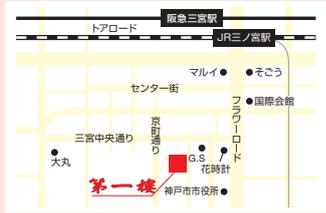
平成23年 6月25日(土)

●場所

第一樓

神戸市中央区江戸町94番地

TEL.078-331-7515



内容

定時総会 5:00PM~

懇親会 6:00PM~

会費

神戸市立第一中学校卒業生…………… 無 料

平成18年度以前の卒業生…………… ￥7,000

平成19~21年度卒業生…………… ￥3,000

平成22年度卒業生(平成23年3月卒業生)……… 無 料

母校の発展・育成の為、筒台会総会にご学友お誘いあわせの上、ご出席賜わりますようお願い申し上げます。

筒台会会長 志 水利 達

多数の方々のご参加をお待ちします。



平成23年度

TOKYO

筒台会東京支部総会のご案内

●日時

平成23年 5月28日(土)

●場所

銀座三笠会館

本店5階(並木通り)

TEL.03-3571-8181



内容

受付開始 4:30PM~

総会・懇親会 5:00PM~7:30PM

会費

一般…………… ￥8,000

学生2年生以上…………… ￥3,000

学生1年生…………… 無 料

皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

神戸市立第一中学、葺合高校の卒業生で東京近隣に在住の方々にお集まり戴き、上記の通り総会並びに懇親会を開催いたします。是非ご出席を賜り旧交をあたためていただきたく存じます。

筒台会東京支部 支部長 渡 部 隆